

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570101339
法人名	医療法人社団 仁和会
事業所名	むつみ苑グループホーム平和が丘
所在地	宮崎市池内町前吾田1096番地 (電話) 0985-30-2855
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 3月 31日

## 【情報提供票より】(平成 21年 3月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,210 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

## (4) 利用者の概要(3月 1日現在)

	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹内病院 小村歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から8年が過ぎ、地域に根ざしたホームとして近隣の人から野菜などの差し入れもあり、隣接する同法人のホームと共に合同の夏祭りや、防災訓練などを行っている。また、近くにある同法人の介護老人保健施設との連携が十分に図られており、24時間いつでも相談できるので、利用者も職員も安心して落ちついた生活ができています。利用者の心身の機能の維持、回復を図ることを目的に生活の中で出来る見守りながらのリハビリに心がけ、音楽療法での回想法なども取り入れている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前は特に改善課題はなかったが、評価を見直し、質の向上に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価調査報告書を参考に、今回の自己評価では、職員全員で日々のケアを振り返りながら取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの活動や行事報告と、防災訓練の参加とグループホームの理解を深める取り組みをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に、誕生会や行事の時の写真を渡しながら日頃の様子を報告したり、意見、不満、苦情など話しやすい雰囲気をつくりながら聞くようにして些細なことでも申し送りノートに記載し、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の人には散歩の時、挨拶したり野菜や花をもらう等の交流をしている。さらにより交流を深めたい意向もある。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	”愛情あふれる、あたたかいホームをめざして”家の主として、地域で継続した生活や開かれた施設として、理念に基づいたケアを心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	認知症の人と家族の思いについて、管理者、職員全員で月1回話し合う時間を作り、理念の中から重点目標を設定し、日々取り組むようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の人には散歩の時、挨拶したり野菜や花をもらう等の交流はしている。が、地域の行事に参加出来ない。		地域住民として自治会の区長に「自治会に加入する、地域や老人会等の行事に参加する」などを相談し、交流を深めることの検討を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価調査報告書の改善点などの確認をすると共に職員全員で自己評価も日々のケアを振り返りながら取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームの活動報告と、行事への参加、防災訓練の見学を依頼する等、ホームの理解を中心に行っている。利用者の入院等、都合などが重なり開催期間が延びている。		運営推進会議に地域の自治会、警察や消防関係者、時には老人会、近隣の人などにも参加を依頼するなどして、新年度からの開催意向もあるので期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の訪問を受け入れ、市町村が主催する研修会などに積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、誕生会や行事の時の写真を渡しながらか日頃の様子を報告したり意見を聞いたりしている。また、金銭を預かっている人には出納簿で管理し、入金都度家族の確認印またはサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、意見、不満、苦情など話しやすい雰囲気をつくりながら聞くようにして些細なことでも申し送りノートに記載し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人を採用した時は、利用者等に慣れるまで職員が一緒にケアをすることで、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修は業務に支障のないように、段階に応じた研修に参加し、資格取得のための研修等は勤務調整などに配慮し積極的に参加している。また、研修受講後は復命報告書で報告するとともに回覧している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会には毎回参加し、意見の交流はあるが、その他に積極的な交流はしていない。		グループホーム連絡協議会等の研修会を通して、他のホームと広く交流する機会を作してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人、家族と面会し、ホームの様子を見てもらい家族の協力を得ながらサービスを開始するようにしている。心配する家族の思いにも配慮し、すぐに馴染んでもらっている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	散歩や体操など日常を共にしながら、昔の慣習、花の名前や歌詞等を教えてもらったり、一緒に飾り物や雑巾を縫ったり冗談等での笑い声で、共に支え合う明るく良い関係が築けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始時に一人ひとりの生活歴、家族の状況を聞き、日常の言動から本人や家族がどう過したいか、希望することなどを把握することに努め、検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者担当職員、介護支援専門員、管理者でミニカンファレンスを経た後、全職員で利用者一人ひとりの状態を話し合い、家族とも相談して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月介護計画の評価を行うとともに、3か月毎の見直しを行い、状態変化に応じて現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が受診に対応出来ないときや緊急時の受診の際は職員が支援を行う他、併設の通所施設での習字教室の利用など柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望する医療機関を受診している。また受診の際は情報提供書を作成し、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化した場合は医療施設や介護老人保健施設等を視野にホームでの看取りはしない方針の確認は行っているが、重度化した人を老健施設の医師や看護師、協力医療機関と連携を取りながら職員全員で介護した経緯はある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの生活歴を大切に、自尊心やプライバシーに配慮して、その人の出来ることや意思を尊重した言葉かけや対応を心がけて取り組んでいる様子が見られた。個人情報の取り扱いにも留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	音楽療法を月2回取り入れており、回想法で利用者の生き生きとした表情がみられる。書道を習いに系列法人に出かけたり、職員とタペストリーの飾り物を作ったりと本人の希望やペースで1日を過ごせるように、本人の生活面、健康面を考慮しながら希望に添えるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も利用者の間に座り、全員揃ってから食べている。職員は会話しながら食事介助をしたり、さりげなく咽せる人に心配るなど和やかな雰囲気の中、利用者は完食されていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は冬の寒い時期は1日置きに、暖くなれば毎日でも入れるようにしている。体調やその日の気分にあわせ、無理のないように清拭などで支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食後の後片づけや洗濯物を干す、たたむ、新聞紙を折る、広告紙の裏でメモ帳にと作ってもらったりと日常的にしている他小物作り、散歩、音楽療法、レクリエーション等利用者が気分転換が図れるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間事業計画で行事としての家族同伴での花見、通所施設での習字教室、散歩など、その日の気温、天候を考慮しながら、外出できる機会を設けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通常、玄関には日中は鍵をかけていないが、不穏になる人には常に所在を確かめ、職員の目が届かない時間帯にのみ、鍵をかけることもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回実施し、消防署の避難訓練の指導を受けている。運営推進会議の方にも見学していただき、今後地域の方の協力が得られるような足がかりを作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は、毎食後記録し、献立ノートを参考に偏らないメニューを心がけ、毎朝の牛乳と食材も多様で栄養バランスも良く薄味で、利用者も美味しいと完食されている。		退院したばかりの人は、食事についてのアドバイスを受けてはいるが、参考のために、同法人の栄養士に、献立表を見てもらうのも良いのではないのでしょうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室の居間にゆったりと座れる大きなソファが置かれ団欒の場になっており、共用空間は天井の和紙を通した間接照明が柔らかくあたたかい雰囲気であり、清潔で生活感、季節感に満たされるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口に花を飾り判りやすくしたり、家具やテレビ、家族の写真や装飾品など家族や職員の心のこもった飾り付け等の気配りは、利用者が安心して居心地良く過ごせるように工夫されている。		